

# 取扱説明書及び部品表

# Takakita

# バキュームカ

北海道仕様	S-4202	S-5302	S-7002	S-9002 S-9002H
-------	--------	--------	--------	-------------------

都府県仕様	S-4202T	S-5302T	S-7002T	S-9002T S-9002HT
-------	---------	---------	---------	---------------------

\* 都府県仕様の取扱説明書と部品表は、北海道仕様の型式を参照下さい。



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために  
必ず本取扱説明書をお読みください。  
お読みになった後も大切に保管してください。  
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや  
タブレットからアクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

# は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**バキュームカ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。  
ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

## 警 告 サ イ ン

 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

-  **危険** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
-  **警告** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
-  **注意** その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

# 目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	18
各部の名称とはたらき	19
トラクタへの装着	20
1. 装着のしかた	20
2. セーフティチェーンの接続	21
3. ユニバーサルジョイントの取付け	21
運転に必要な装着の取扱い	23
1. 吸入バルブの取扱い	23
2. 散布バルブの取扱い	23
作 業 方 法	24
1. 作業手順と要点	24
2. 吸入作業をするときは	25
3. 散布作業をするときは	26
作業前の点検について	28
1. 点検一覧表	28
簡単な手入れと処置	29
1. ポンプの確認・点検	29
2. 真空安全弁の確認・調整	30
3. 加圧安全弁の確認・調整	30
4. 圧力連成計の確認	30
5. リヤハッチの開閉	31
6. 上部マンホールの開閉	32
7. 自動給水停止装置の確認	32
8. 尿分離器の確認	32
9. タイヤの点検・修理	33
10. 各部への注油・グリスアップ	34
11. 長期格納時の手入れ	35
不 調 診 断	36
付 表	37
1. 主要諸元	37
2. 主な消耗部品	37
3. オイル	37

# ⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

## 1. 本機を使用するにあたって

### (1) 使用する人の条件

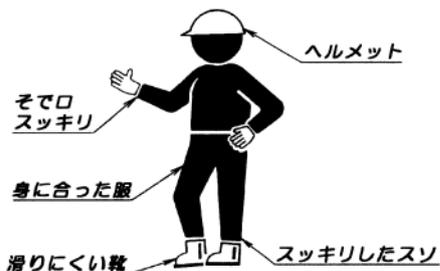
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。
- 16歳未満の人



### (2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



### (3) 適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

#### ● 適応トラクタ馬力

型式	適応馬力 kW(PS)
S-4202	33.1~58.8(45~ 80)
S-5302	40.5~88.3(55~120)
S-7002	47.8~88.3(65~120)
S-9002(H)	55.2~91.9(75~125)

● ドローバ : スイングドローバ

● P T O回転速度 : 540min<sup>-1</sup>(rpm)

#### ● 油圧取出し

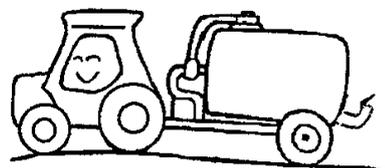
S-4202 : 複動1系統・単動1系統

S-5302 : 複動1系統・単動1系統

S-7002 : 複動1系統・単動1系統

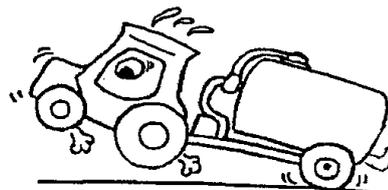
S-9002 : 複動1系統・単動1系統

S-9002H : 複動2系統・単動1系統



### (4) 装着時の前後バランス確認

ドローバに取り付けて、糞尿などを積載したときのヒッチ荷重に、トラクタ重量を加えた値の20%以上の荷重が、前輪に作用していることが必要です。もし不足するときはフロントウエイトを取付けて、20%以上を確保するか、できなければ装着しないでください。



## ⚠ 安全に作業するために

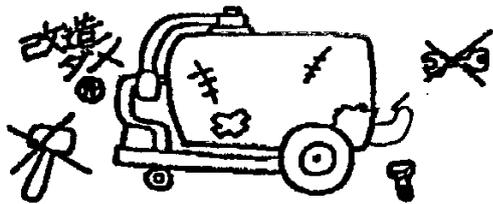
### (5) バランスウエイトの取付け

トラクタのバランスウエイトは指定された部分に指定されたウエイト以外は取付けないでください。

### (6) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造しないでください。



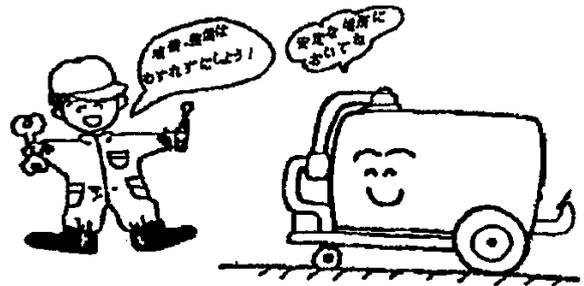
### (7) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



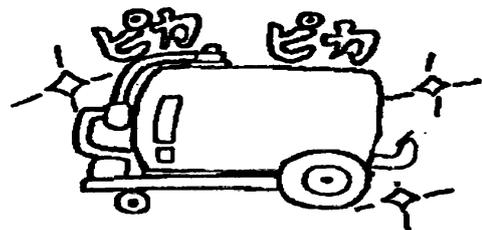
### (3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で P T O を切り、トラクタのエンジンを停止させ、駐車ブレーキ又は車止めをしてから行ってください。



### (4) 機械を常にきれいに

本機の性能を長期間維持するためにも、機械を常にきれいに維持してください。



### (5) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときは、エンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



## 2. 点検・整備をしてください

### (1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。



### (2) 作業前の点検・整備を忘れずに

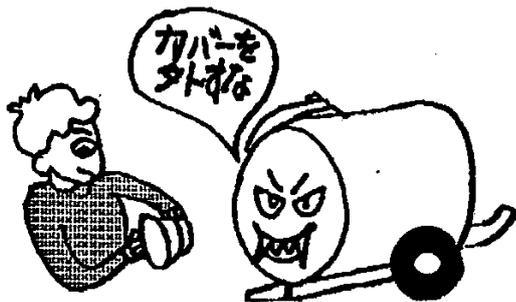
ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

## ⚠ 安全に作業するために

### (6) カバー類を必ず取付ける

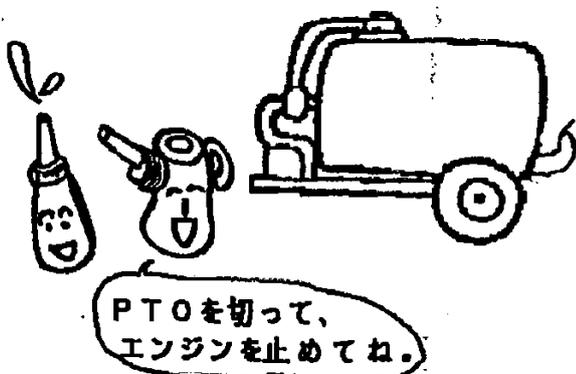
カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずPTOを切り、エンジンを止めてから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元通りに取付けてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



### (7) 注油・給油するときは

PTOを切り、エンジンを止め、回転部分が完全に停止してから行ってください。

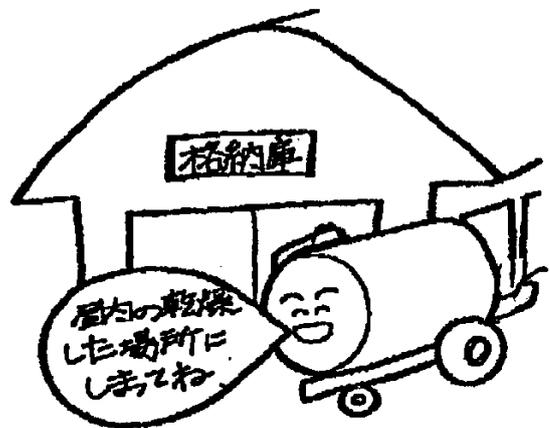


### (8) 高圧油に注意してください

- ① 高圧油による傷害を防止するために、配管・ホースなどの取外し前には、必ず圧力を抜いてください。
- ② 圧力をかける前に配管・ホースなどは、正しく確実に締め付けてください。
- ③ 非常に小さな穴からの漏れは、ほとんど目に見えないことがありますので、手で漏れを捜すことはやめてください。
- ④ 漏れによるヤケドやケガを負った場合は、速やかに医者診療を受けてください。

### (9) 長期格納するときは

機械をきれいにし、回転部及びチェーンには十分注意して、屋内の平坦な場所に車止めをして保管してください。



## 3. 作業・移動をするときは

### (1) 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

また、散布作業をするときは付近に人や器物がないことを確認してから行ってください。



### (2) エンジンを始動するときは

クラッチを切り、変速レバーを中立にして周囲の人に合図をして、安全を確かめてからエンジンを始動してください。

## ⚠ 安全に作業するために

周囲の安全を確かめ、急発進をしないよう徐々に発進してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



### (3) 2人以上で作業するときは

2人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。

### (4) 運転中のポンプにはふれない

運転中のポンプにふれると火傷を負う恐れがあります。手や足で絶対にふれないようにしてください。



### (5) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ・急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力低くして作業を行ってください。

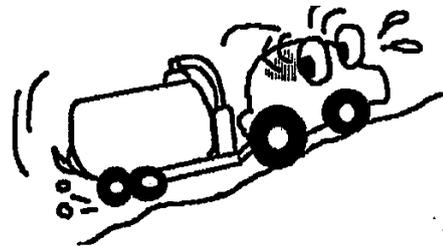
### (6) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

①斜面の等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。斜面の作業は、必ず直角方向に走行してく

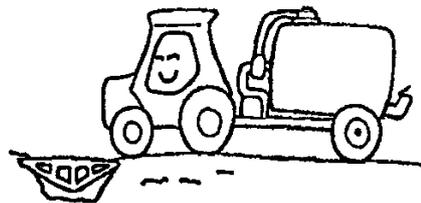
ださい。

②傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。高速で旋回すると、転倒する危険があります。



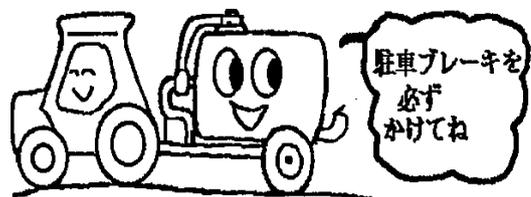
### (7) 溝やあぜを横断したり軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



### (8) 作業中で運転席より離れるときは

機械を平坦な場所に下ろし、PTOを切り、エンジンを止め、駐車ブレーキを掛けてください。また、本機に車止めをしてください。



## ⚠ 安全に作業するために

### 4. 移動・輸送するときは

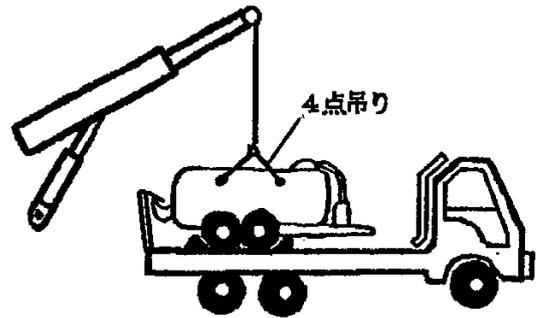
#### (1) 移動及び作業中に旋回するときは

トラクタにバキュームカをけん引しての旋回は内輪差が生じるので、十分広いところで旋回範囲を考慮して行ってください。

#### (2) トラックなどへの積み込み・積降しは

平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけてください。

積込んだ機械は必ず車止めをし、ロープで固定してください。



以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

## ⚠ 安全に作業するために

### 5. 公道走行するときは

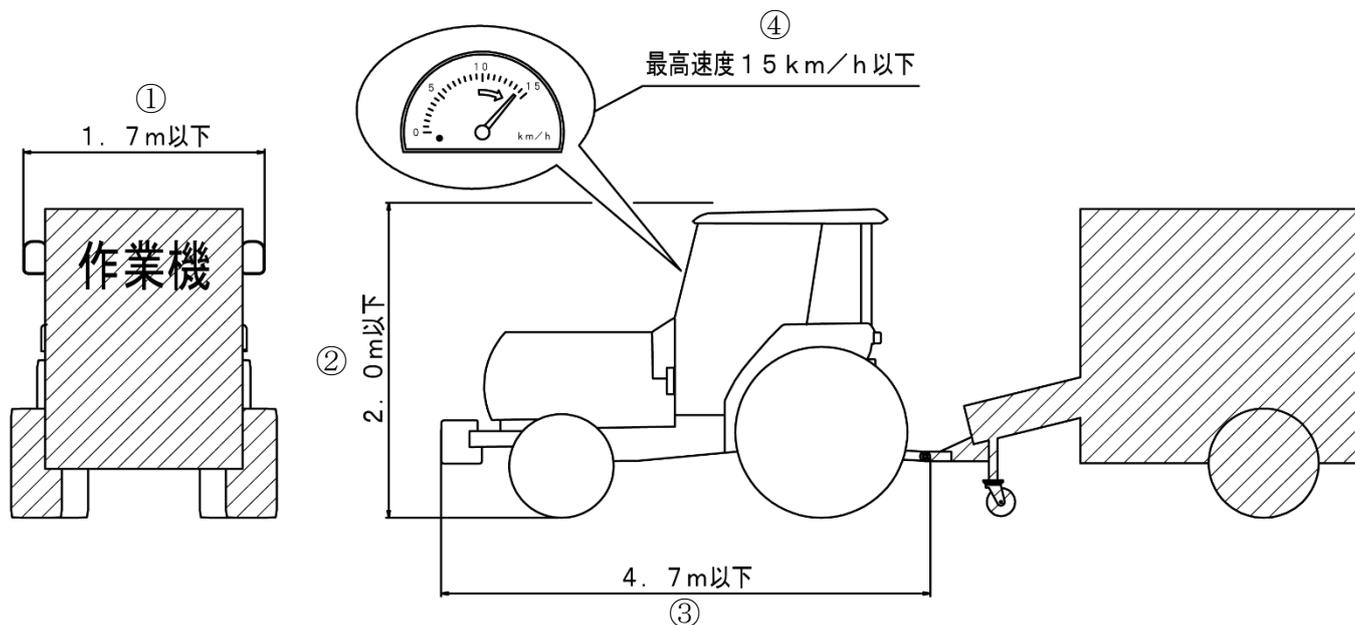
農耕用トラクタに関わる道路運送車両法の運用が見直され、保安基準に緩和措置が設けられました。必要な対応をすることで、けん引タイプの作業機で公道走行を行うことができます。公道走行をする際は、下記項目を確認した上で必要な対応を行い、法令遵守して走行してください。

#### (1) 必要な運転免許証について

トラクタの寸法が下表①～③の数値以内で④最高速度15km/h以下の場合は小型特殊免許で運行可能になりますが、下表①～④の数値をひとつでも上回る場合、大型特殊免許(農耕用に限る、も含む)とけん引免許(農耕用に限る、も含む)が必要となります。ただし、車両総重量 750kgを超えない農耕作業用トレーラをけん引する場合、けん引免許(農耕用に限る、も含む)は必要ありません。

- |          |                             |
|----------|-----------------------------|
| ① 幅1.7m  | ② 全高2.0m(安全キャブや安全フレームは2.8m) |
| ③ 全長4.7m | ④ 最高速度15km/h以下              |

下図を参考にご確認ください。



## ⚠ 安全に作業するために

### (2) 保安基準への適合性確認

自動車の種類と大きさにより、申請や検査登録が必要になります。

いずれの場合も農耕作業用トレーラ、農耕トラクタの使用者が保安基準適合性を確保する必要があります。

けん引車の農耕トラクタの種別	農耕作業用トレーラの種別と手続き
小型特殊自動車	<p>[小型特殊自動車]</p> <p>①一般的な大きさのもの ※1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要はありません。</li> </ul>
大型特殊自動車 (自動車検査証にけん引時の速度制限の基準緩和を受けた旨の記載があるもの)	<p>②全幅が 2.5m を超えるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路管理者(地方整備局、各都道府県、各市町村等)に対し、個別に特殊車両通行許可を受ける必要があります。</li> </ul> <p>③長さが 12m または全高 3.8m を超えるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。</li> </ul>
大型特殊自動車 (上記以外のもの)	<p>[大型特殊自動車]</p> <p>①一般的な大きさのもの ※2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。</li> </ul> <p>②長さが 12m または高さが 3.8m を超えるもの、その他オーバーハング等の基準を超えるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。</li> <li>・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。</li> </ul>

※1 全幅2.5m、全長12m、全高3.8mを超えない大きさのもの

※2 農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結全長が12mを超える場合、道路管理者(地方整備局、地方自治体等)から、特殊車両通行許可を受ける必要があります。

## ⚠ 安全に作業するために

### (3) 灯火器類・ステッカーの取付け

下記フローチャート①～③を全てそれぞれについてご確認ください、必要に応じて公道走行を行うための追加装備を取付けてください。

#### ①トラクタの大きさ、最高速度による灯火器取付け位置

けん引をするトラクタは全長4.7m以下、全幅1.7m以下、全高2.0m以下、かつ最高速度15km/h以下か。

YES

NO

前面:A. 前部反射器  
後面:B. 後部反射器  
D. 方向指示器  
を取り付ける必要があります。  
※車幅灯、尾灯、制動灯、および  
後退灯は取付け義務がないので  
備える必要はありません。  
次頁の取付け例1を参照してくだ  
さい。

前面:A. 前部反射器  
C. 車幅灯  
後面:B. 後部反射器  
E. コンビネーションランプ  
F. 後退灯  
を取り付ける必要があります。  
※トラクタと農耕作業用トレーラの  
連結全長が6m未満の場合は、  
農耕作業用トレーラの後面方向  
指示器は必要ありません。  
次頁の取付け例2を参照してくだ  
さい。

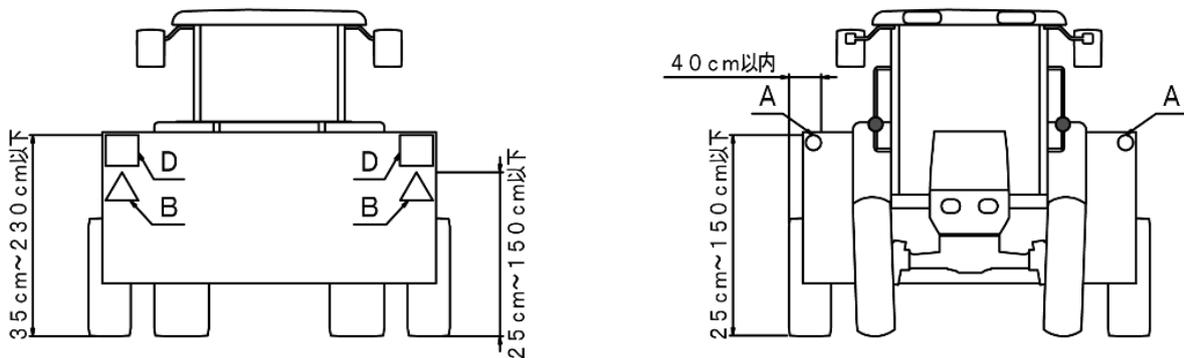
A.前部反射器	B.後部反射器	C.車幅灯	D.方向指示器
			
E.コンビネーションランプ		F.後退灯	
			

## ⚠ 安全に作業するために

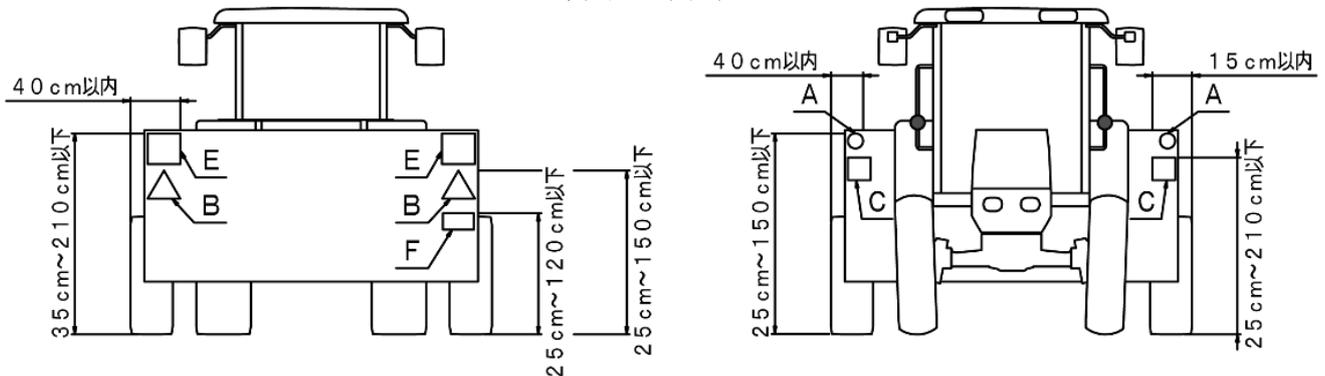
### ● 装備の取付け位置

- ・ 道路運送車両の保安基準により、各種灯火器類の取付け位置は定められています。
  - 前部反射器(リフレクター) 最外側から40cm 以内、高さは地上25cm 以上150cm 以下
  - 後部反射器(リフレクター) 最外側から40cm 以内、高さは地上25cm 以上150cm 以下
  - 車幅灯(ポジションランプ) 最外側から15cm 以内、高さは地上25cm 以上210cm 以下
  - 方向指示器(ウインカー) 最外側から40cm 以内、高さは地上35cm 以上230cm 以下
  - 尾灯(テールランプ) 最外側から40cm 以内、高さは地上35cm 以上210cm 以下
  - 制動灯(ブレーキランプ) 最外側から40cm 以内、高さは地上35cm 以上210cm 以下
  - 後退灯(バックランプ) 高さは可能な限り25cm 以上120cm 以下
- ・ 車幅灯は前方から確認(視認)できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・ コンビネーションランプは後方から確認(視認)できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・ 後退灯は後方から確認(視認)できる位置に上記条件を満たすように取付けてください。

(取付け例1)

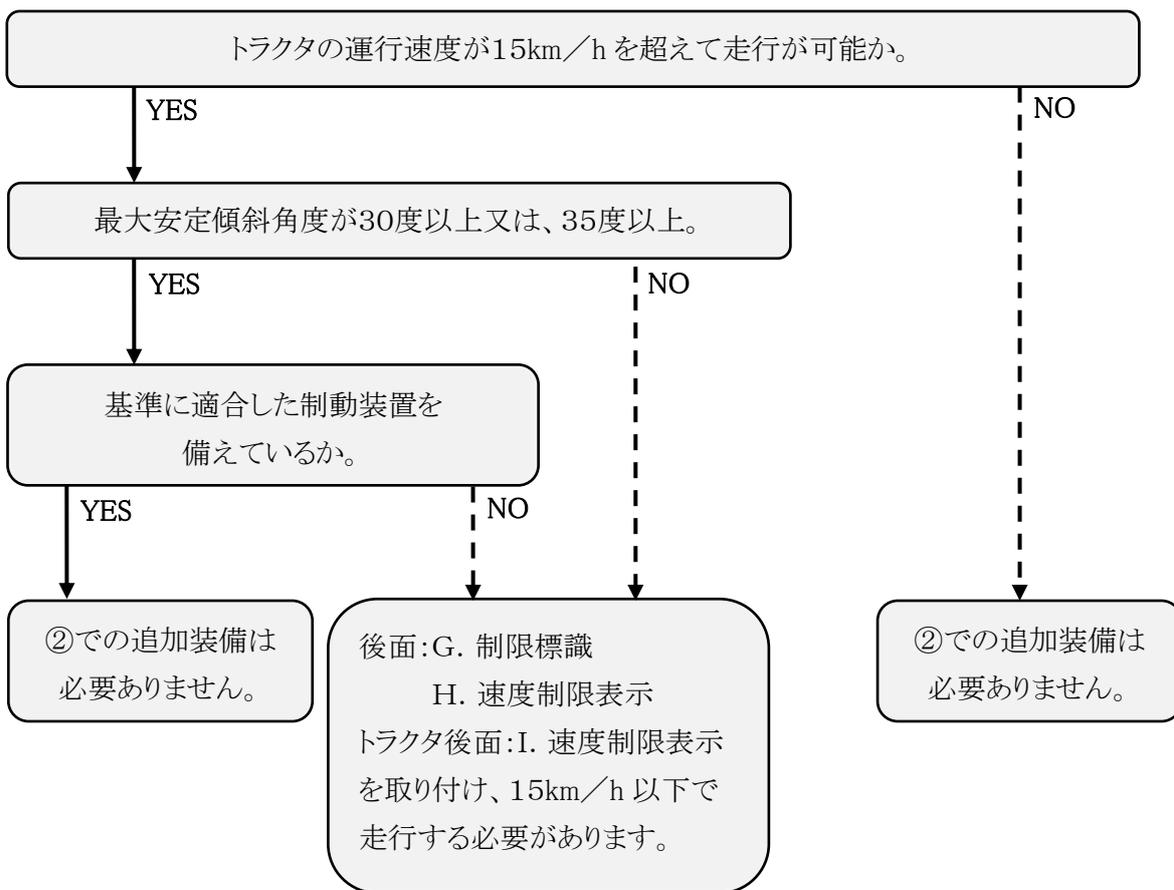


(取付け例2)



# ⚠ 安全に作業するために

## ②トラクタの運行速度



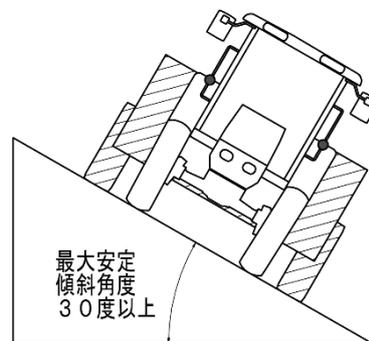
●最大安定傾斜角度が不明な場合は、運行速度15km/h以下で走行してください。

### <安定性に関して>

作業機を装着した際に、最大安定傾斜角度が30度以上又は、35度以上(車両総重量が車両重量の1.2倍以上又は、積載により重心高さが上がるもの)であれば、通常で道路走行できます。

上記条件を満たさない場合は、

- ・運行速度15km/h以下での道路走行
- ・道路走行をする際に、Gを作業機後面に表示、  
Hを作業機後面に表示、  
Iをトラクタ後面・運転席に表示  
を行う必要があります。

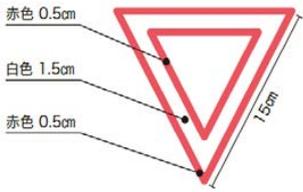
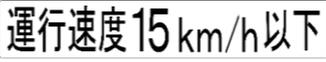


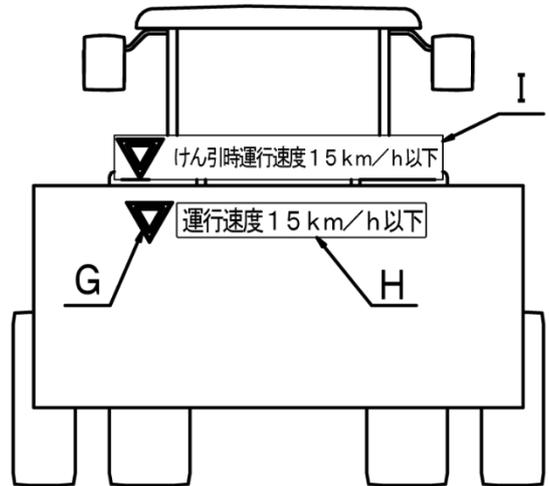
# ⚠ 安全に作業するために

## ● 装備の取付け位置

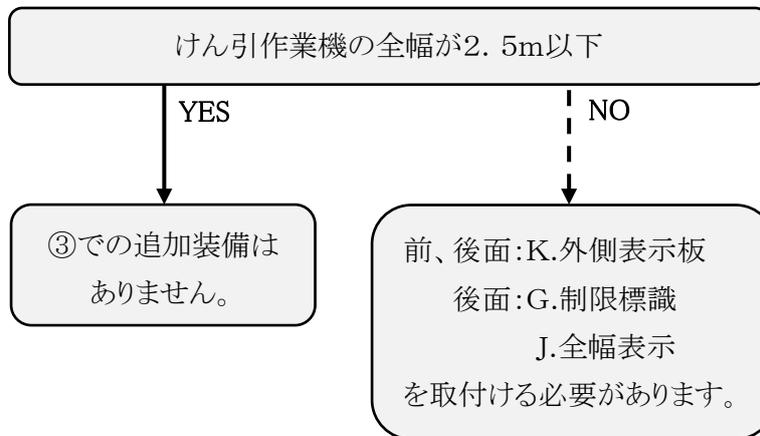
- ・ G、H、Iは後方から確認できる位置に取付けてください。
- ・ Hは運転席にも表示する必要があります。

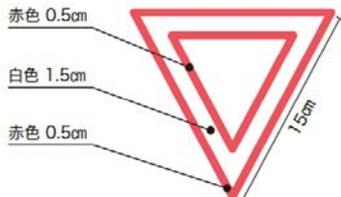
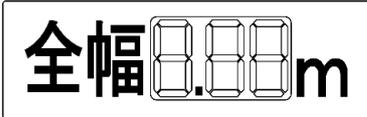
(取付け例)

<p>G. 制限標識</p> 	<p>H. 速度制限表示 (作業機側)</p> 
<p>I. 速度制限表示 (トラクタ側)</p>	
	



## ③ 作業機装着時の全幅



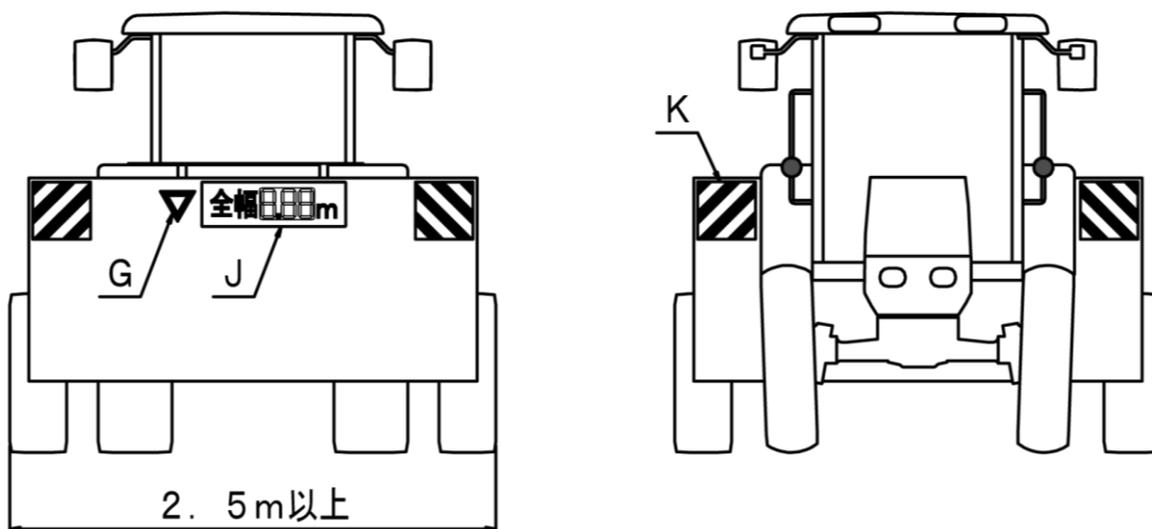
<p>G. 制限標識</p> 	<p>J. 全幅表示</p> 	<p>K. 外側表示板</p> 
--	---	---

## ⚠ 安全に作業するために

### ● 装備の取付け位置

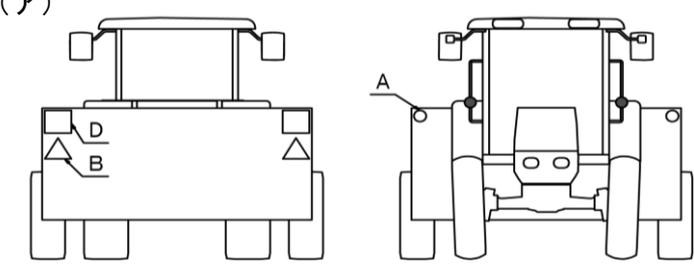
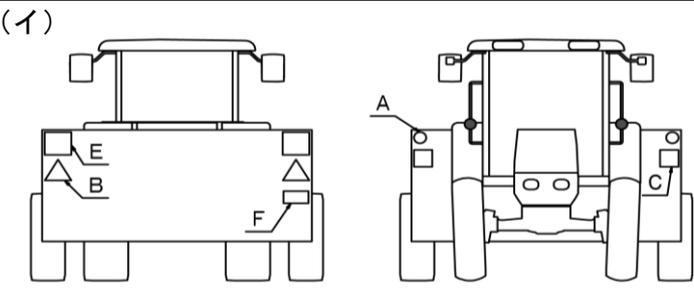
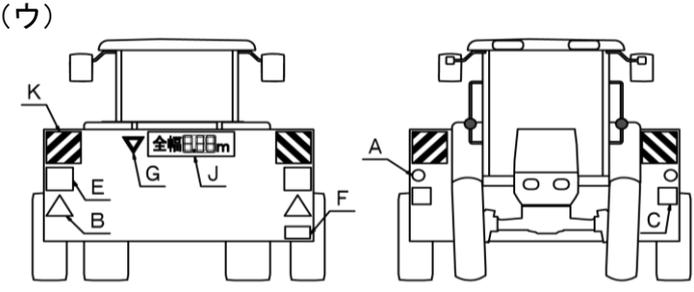
- ・ G、Jは後方から見やすい位置に取付けてください。
- ・ Kは前後、両端に赤白ラインが「ハの字」になるように取付けてください。

(取付け例)



# ⚠ 安全に作業するために

## 灯火器類・ステッカー取り付け例

灯火器取付け位置  車幅灯 前部反射器 尾灯 後部反射器 制動灯 方向指示器 後退灯	全長4.7m以下、 全幅1.7m以下、 全高2.0m以下、 最高速度15km/h 以下の場合	(ア) 
	上記の寸法 または最高速度 15km/hを1つでも 上回る場合	(イ) 
	全幅が2.5mを 超える場合	(ウ) 

### 灯火器・ステッカー

A. 前部反射器



B. 後部反射器



C. 車幅灯



D. 方向指示器



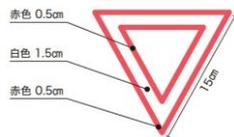
E. コンビネーションランプ



F. 後退灯



G. 制限標識



H. 速度制限表示  
(作業機側)

運行速度15 km/h以下

I. 速度制限表示  
(トラクタ側)

けん引時運行速度15 km/h以下

J. 全幅表示

全幅8.88m

K. 外側表示板

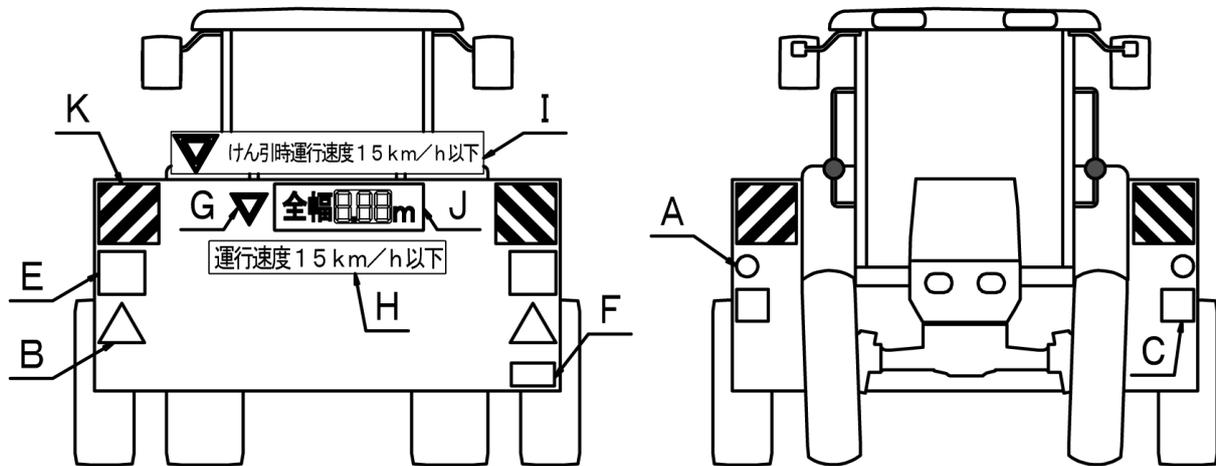


※全幅2.5mを超過する場合は、道路管理者(国道:地方道路局、県道:各都道府県、市道:各市町村)から特殊車両通行許可を得る必要があります。

## ⚠ 安全に作業するために

- p.10「②トラクタの運行速度」を確認後、速度制限表示が必要な場合は取付けてください。

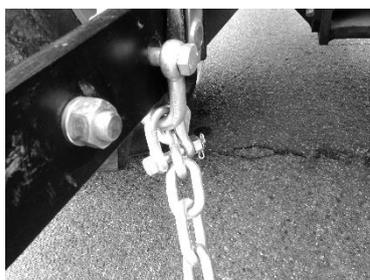
例：(ウ)に速度制限表示を追加



- 灯火器類取付けの際には、トラクタの操作と連動して点灯することを確認後に公道走行を行ってください。また、灯火器類・ステッカーが汚れたときは視認できるように掃除をしてください。

### (4) 農耕作業用トレーラの構造要件(分離時の連結維持構造)に関して

農耕トラクタが農耕作業用トレーラをけん引した際に、不意に連結装置(ドローバ等)が分離したときでも農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結を保つことができる構造でなければ道路走行できません。セーフティチェーン等を備え、けん引時にはセーフティチェーン等をねじ止め等でつないで道路を走行してください。



セーフティチェーン

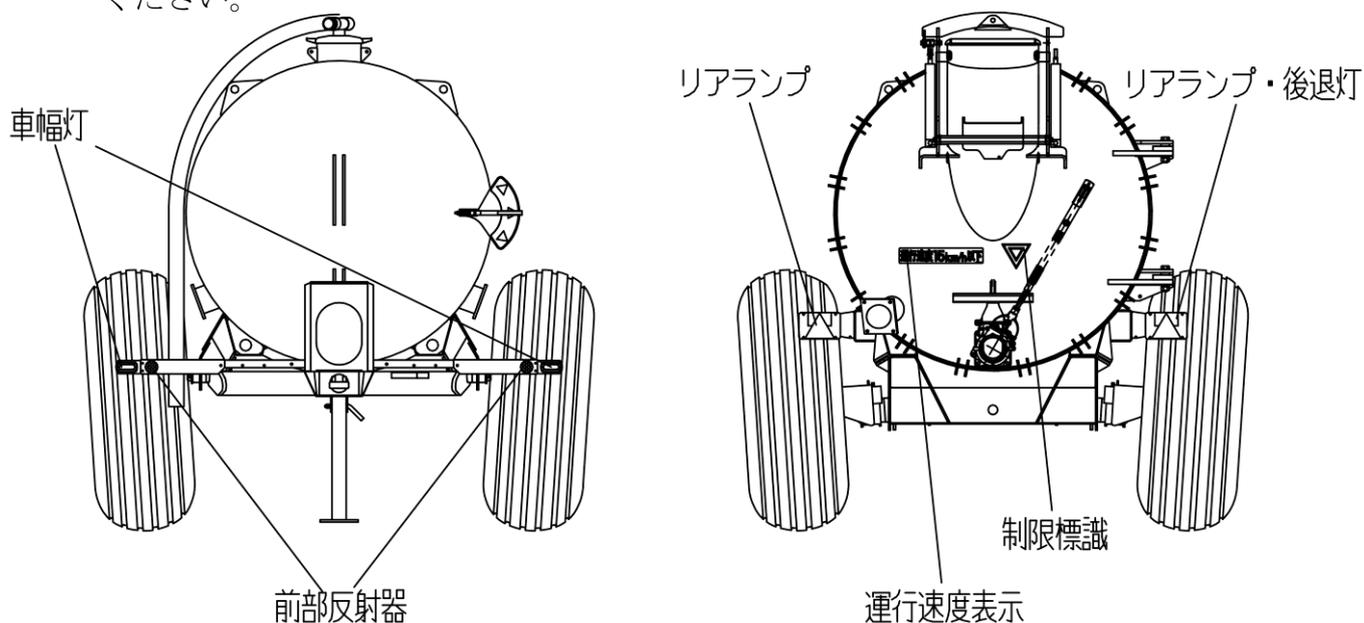
詳細は日農工「公道走行ガイドブック」(<http://www.jfnma.or.jp/koudo.html>)をご覧ください。  
その他不明な点は、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

## ⚠ 安全に作業するために

### (5) 公道走行時の注意点

本機には、下記部品が標準装備されています。保安基準の緩和により運行速度 15 km/h 以下で公道走行することができます。

また、トラクタと作業機を連結するためのセーフティチェーンと固定用のシャックルを付属しています。作業機をトラクタでけん引して公道走行する際は必ず取付けてください。取付方法については、P.21 の『セーフティチェーンの接続』を参照してください。



トラクタ運転席に表示する、運行速度表示が付属しています。

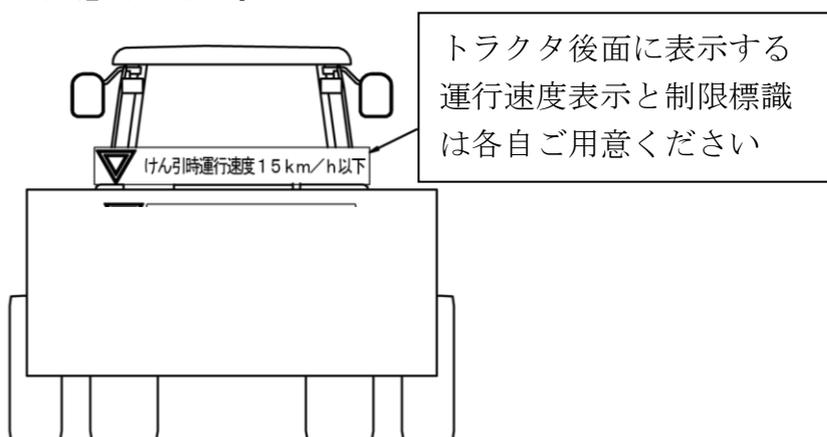
運行速度表示 (トラクタ運転席用)

けん引時運行速度15km/h以下  
00120820000

上記、運行速度表示は運転席から確認できる位置に表示してください。

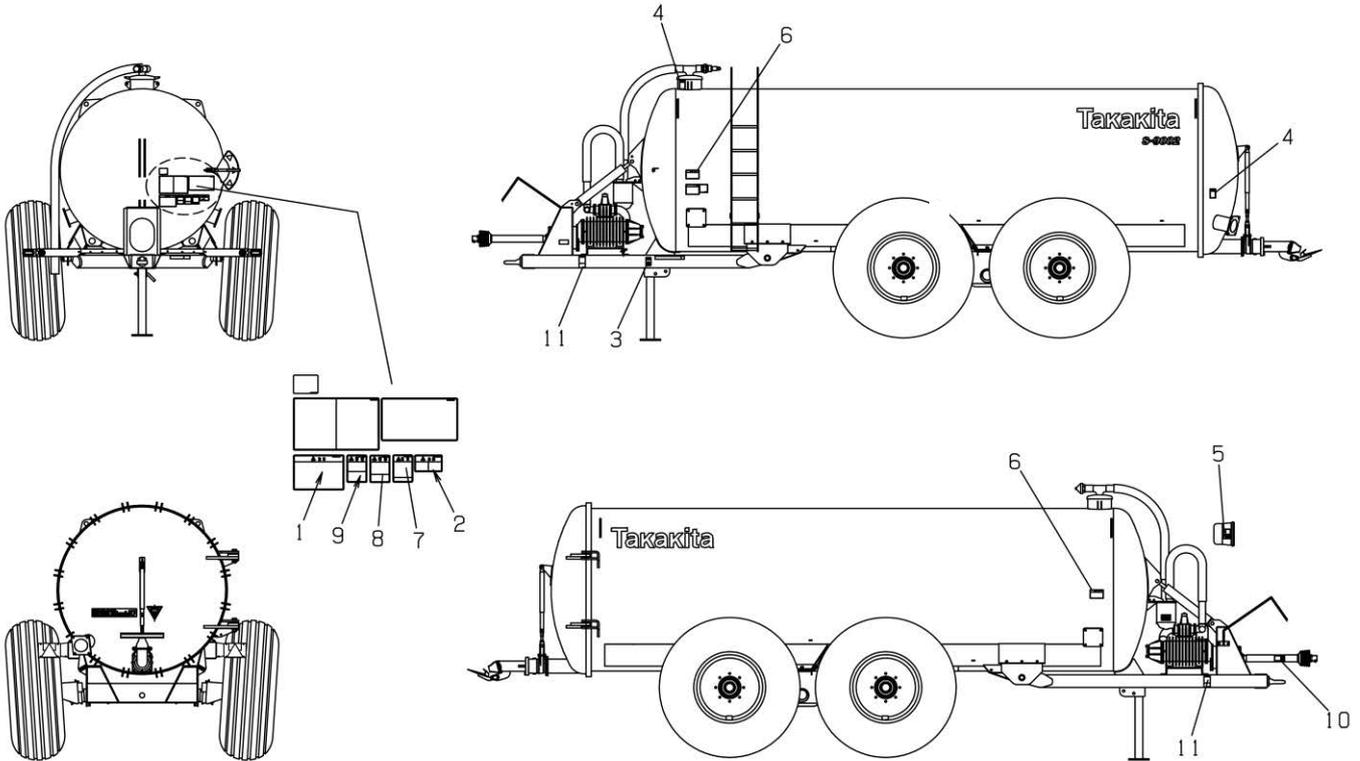
ただし、トラクタ後面に表示する運行速度表示及び制限標識は付属されていません。

お客様ご自身でご用意ください。



# ⚠ 安全に作業するために

## 6. 警告ラベルの貼付位置



① 部品コード 00130-6002-400

<b>⚠ 注意</b>	
1. 取扱いを誤ると事故や故障の原因となりますので、必ず取扱説明書を熟知するまでお読みください。	2. 斜面での駐車時は歯止めをしてください。
2. 全部のラベルが所定部分に貼付けられているようにしてください。	3. 点検・調整等はエンジンを止めて実施してください。
3. エンジン始動前に機械の周りに人がいないことを確認してください。	4. 作業中は人や動物を近づけないでください。
4. 運転中は人や動物を近づけないでください。	5. 運転道を離れるときは、必ず公道走行はできません。

② 部品コード 00120-6000-230

<b>⚠ 危険</b>	
	転落事故を防ぐためには発進や登坂時にトラクタの前輪が浮き上がらないよう充分な前部ウエイトを装備ください。

③ 部品コード 00120-6000-750

<b>⚠ 警告</b>	
事故発生の恐れがありますので、駐車・停車時には必ず車輪止めをしてください。	

④ 部品コード 00120-6001-210

<b>⚠ 警告</b>	
傷害発生の恐れがありますので、ハッチを開ける前にタンク内圧力が0MPaであることを確認してください。	

⑤ 部品コード 00130-6000-960

<b>⚠ 注意</b>	
	PTO回転速度は540min <sup>-1</sup> (rpm)以下で作業してください。

⑥ 部品コード 00130-6000-100

<b>⚠ 警告</b>	
必ず4点吊り	吊り上げるときは、必ず吊り輪による4点吊りとし、吊り下げ物の下に立ち入らないでください。

## ⚠ 安全に作業するために

⑦部品コード 00130-6000-190



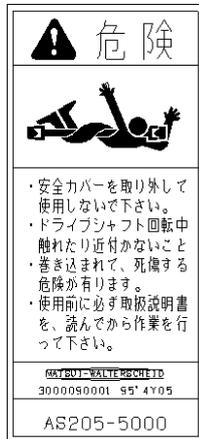
⑧部品コード 00130-6000-210



⑨部品コード 00130-6000-220



⑩部品コード 00130-6951-010



⑪部品コード 00130-6002-230



### 警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにし、傷をつけないように注意し、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、柔らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながらかいてください。

# 本製品の使用目的とサービスについて

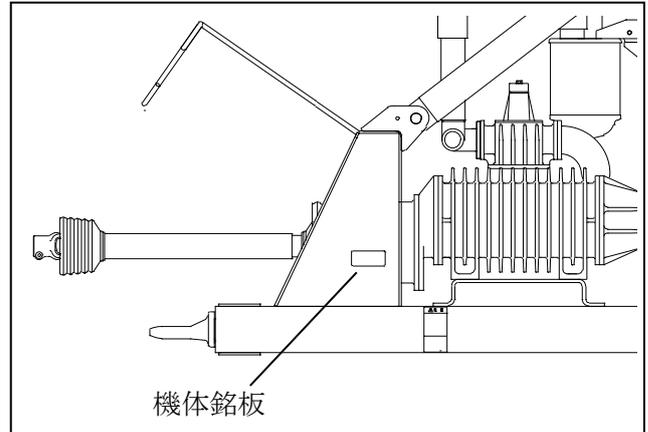
## 本製品の使用目的について

本製品は、家畜の尿の吸入や散布する作業にご使用ください。  
 使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。  
 使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

## アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



## 【連絡していただきたい内容】

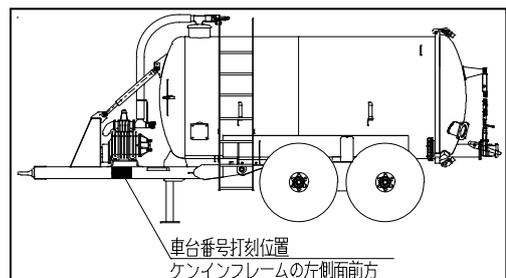
- 品名と型式
- 機体 No. (SER-No.)
- ご使用状況は？ (どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？ (約〇〇時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。  
 ※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品名	バキュームカ		
型式	S-4202 (T) / S-5302 (T) / S-7002 (T) / S-9002 (T) / S-9002H (T)		
機体 No. (SER-No.)			
購入年月日	年	月	日
販売店名			
TEL : ( )			

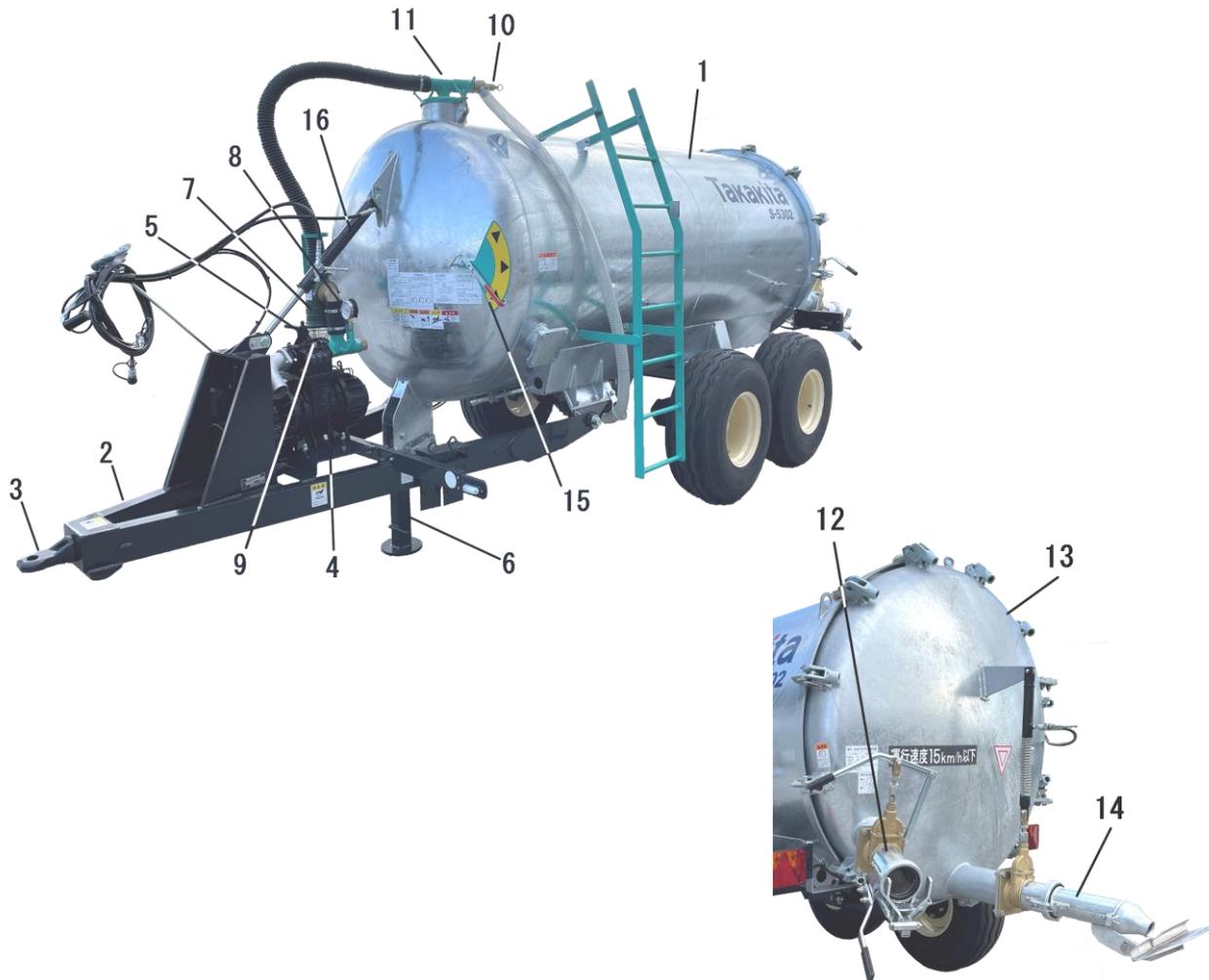
## 車台番号について

本製品には、上記機体 No. と関連させて機械の同一性を管理する車台番号が打刻されています。  
 打刻位置と打刻形式は右図を参照ください。



型式	S-4202 (T) / 5302 (T)	S-7002 (T)	S-9002 (T) / 9002H (T)
車台番号	S-4200-****	S-7000-****	S-9001-****

## 各部の名称とはたらき



番号	名 称	は た ら き
1	タンク	尿を吸入する器
2	フレーム	本機をけん引するフレーム
3	けん引かん	トラクタと連結する装置
4	ポンプ	タンク内の空気を吸入したり、加圧したりする
5	切替えレバー	吸入、加圧の切替えレバー
6	スタンド	保管時に使用
7	尿分離器	ポンプに尿が流入するのを防止する装置
8	圧力連成計	タンク内の空気圧を表示する計器
9	真空安全弁	タンク内の空気圧が規定以下にならないようにする安全弁
10	加圧安全弁	タンク内の空気圧が規定以上にならないようにする安全弁
11	上部マンホール	自動給水停止装置を点検する、マンホール
12	吸入バルブ	尿を吸入する時に使用するバルブ
13	リヤハッチ	タンク内部を掃除するとき使用する
14	散布ノズル	散布作業時、タンク内の尿を吐出するノズル
15	レベルゲージ	タンク内の残量計
16	シリンダ	タンクフレームを上下するシリンダ

# トラクタへの装着

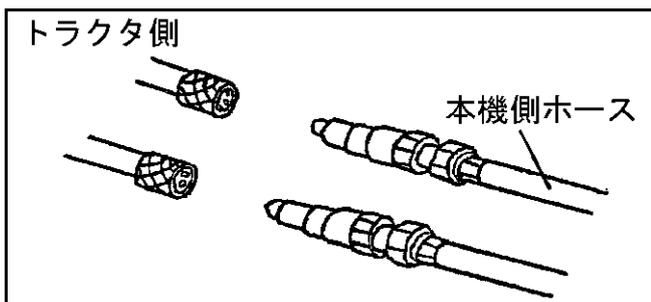
- トラクタへの本機装着は、平坦で安定した場所で行ってください。
- ドローバへの装着はトラクタの動きに十分注意し、2人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
- ユニバーサルジョイントの接続は、必ずトラクタのエンジンを止め、PTOクラッチを切ってから確実に取付けてください。

以上のことをまもらないと傷害発生の恐れがあります。

## 1. 装着のしかた

### ◆油圧ホースの装着

- ①トラクタを後進させ、本機と装着する位置に止めエンジンを切る。
- ②トラクタの油圧レバーを操作して残圧を抜く。
- ③油圧ホースをトラクタに接続してください。



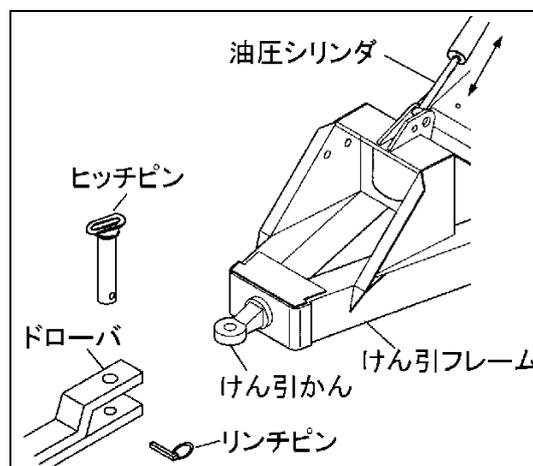
### ◆ドローバへの装着

- ①ドローバを一番短い位置にする。
- ②油圧シリンダのストップバルブをゆっくり開く。  
車体が急に下がる為、注意してください。

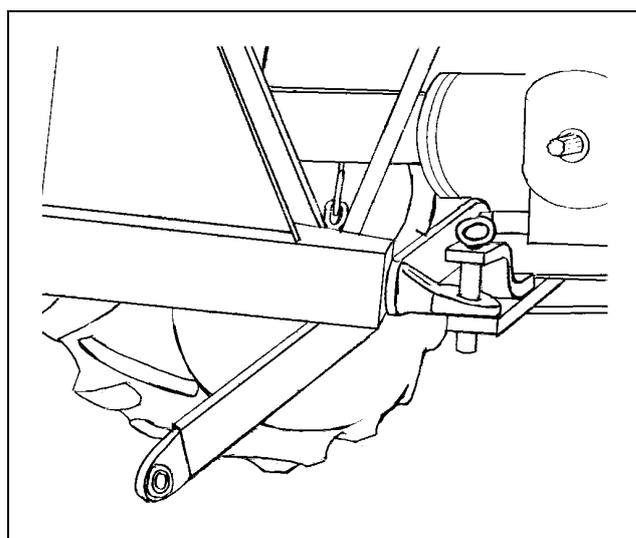


- ③トラクタのエンジンを始動し、  
・油圧レバーを操作して本機のシリンダを作動させ、ドローバとけん引かんの高さを合わせる。

- ・トラクタを後進し、穴位置を合わせてください。
- ・ヒッチピンを入れ、リンチピンで抜け止めしてください。



※旋回時にローリンクがけん引フレームに干渉しない程度にトラクタのローリンクを下げた状態で使用してください。

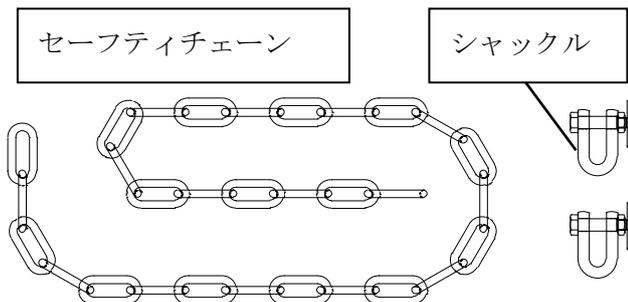


# トラクタへの装着

## 2. セーフティチェーンの接続

◆作業機を農耕トラクタでけん引して公道走行する際はセーフティチェーンでの連結が必要です。

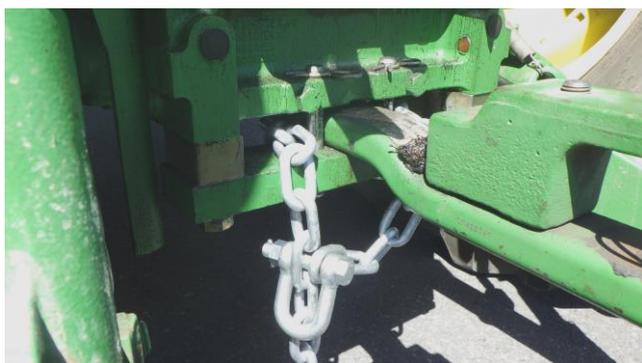
セーフティチェーン1本とヌケドメピン付きのシャックル2個を付属しています。本機をトラクタでけん引し公道走行する際は、必ずチェーンで作業機とトラクタを連結した状態で走行してください。



①セーフティチェーンの片端をシャックルを使用して本機ケンインヒッチに固定します。



②セーフティチェーンをトラクタのドロワー部に回しかけトラクタから外れないようにします。



### 注意

シャックル固定後は必ずヌケドメピンを入れ、抜け止めしてください。旋回時にセーフティチェーンがドロワー等に引っかからない事を確認して下さい。

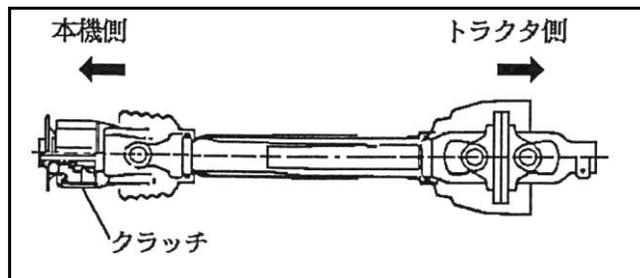
## 3. ユニバーサルジョイントの取付け

### ◆ユニバーサルジョイントの取付け順序

本機入力軸に取付けてから、トラクタPTO軸に確実に取付けてください。

### 注意

下図のように、クラッチ軸を本機側に取付けてください。

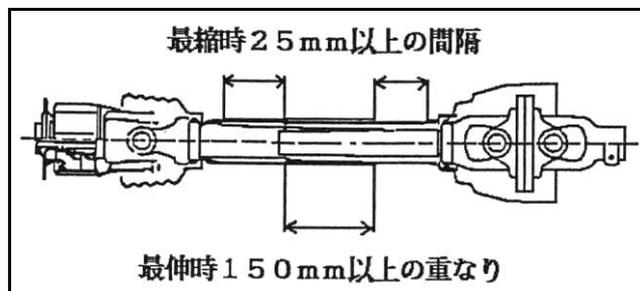


### ◆ユニバーサルジョイントの長さ確認

ジョイントの長さは本機が旋回するときに変化します。

先に、ジョイントが長すぎないかを確認してください。

長すぎるときは、下図の寸法が確認できるように切断してください。



## トラクタへの装着

### 注意

・作業時のジョイント角度は、本機側で最大 25° (度)、トラクタ側ワイドアングル側で 60° (度) を超えないよう調整してください。

25° (度) を超えるとジョイント破損の原因となります。

### ◆カバー回転止めチェーンで固定を

ユニバーサルジョイントのカバーが回転しないように、チェーンに余裕をつけて、しっかりと固定してください。

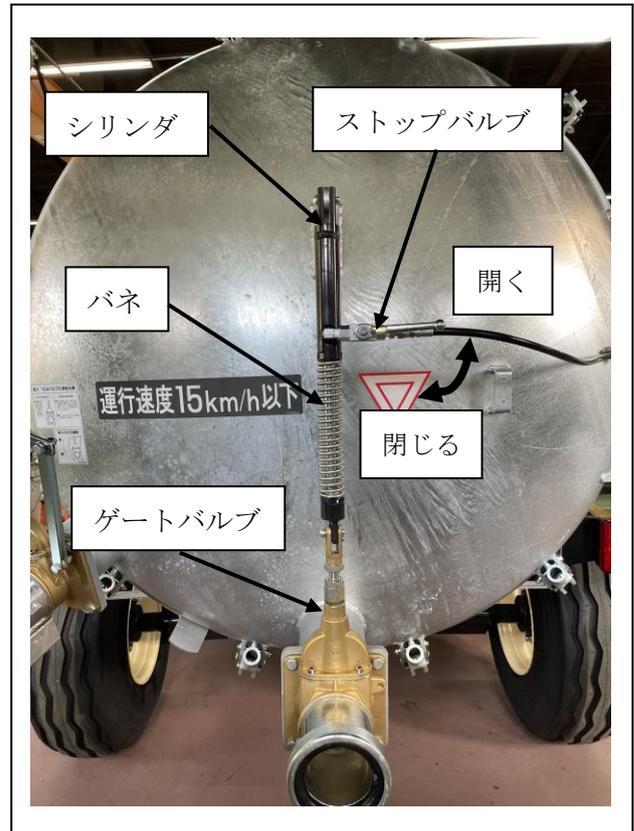
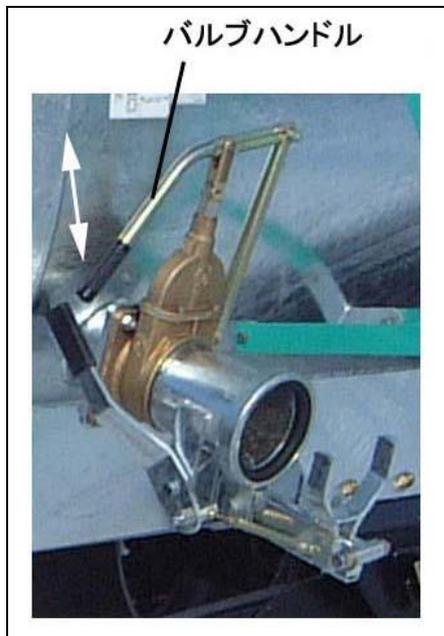
# 運転に必要な装置の取扱い

## 1. 吸入バルブの取扱い

### ◆バルブハンドルで尿の吸引開始・停止

ポンプを駆動して、タンク内を真空にして、バルブハンドルを上にとすると吸引します。

下にとすると停止します。



## 警告

点検・調整・清掃を行うときは、必ずPTOを止め、タンク内の空気圧が0MPaであることを確認してから行ってください。

これを怠ると、事故が発生するおそれがあります。

## 2. 散布バルブの取扱い

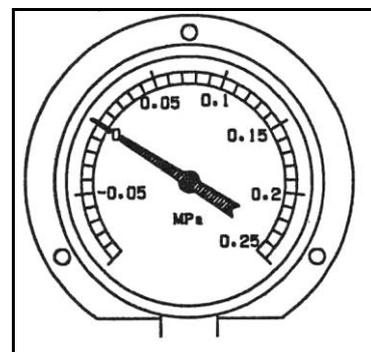
### ◆トラクタの油圧で開閉します。

油圧シリンダは、単動シリンダを装備しています。

- ・ゲートバルブを開けるときは、トラクタの油圧レバーを操作し、油圧を送る側にするとシリンダが縮み、ゲートバルブが開きます。
- ・ゲートバルブを閉じるときは、トラクタの油圧レバーを操作し、油圧を戻す側にするとバネの力によりシリンダが伸びてゲートバルブを閉じます。

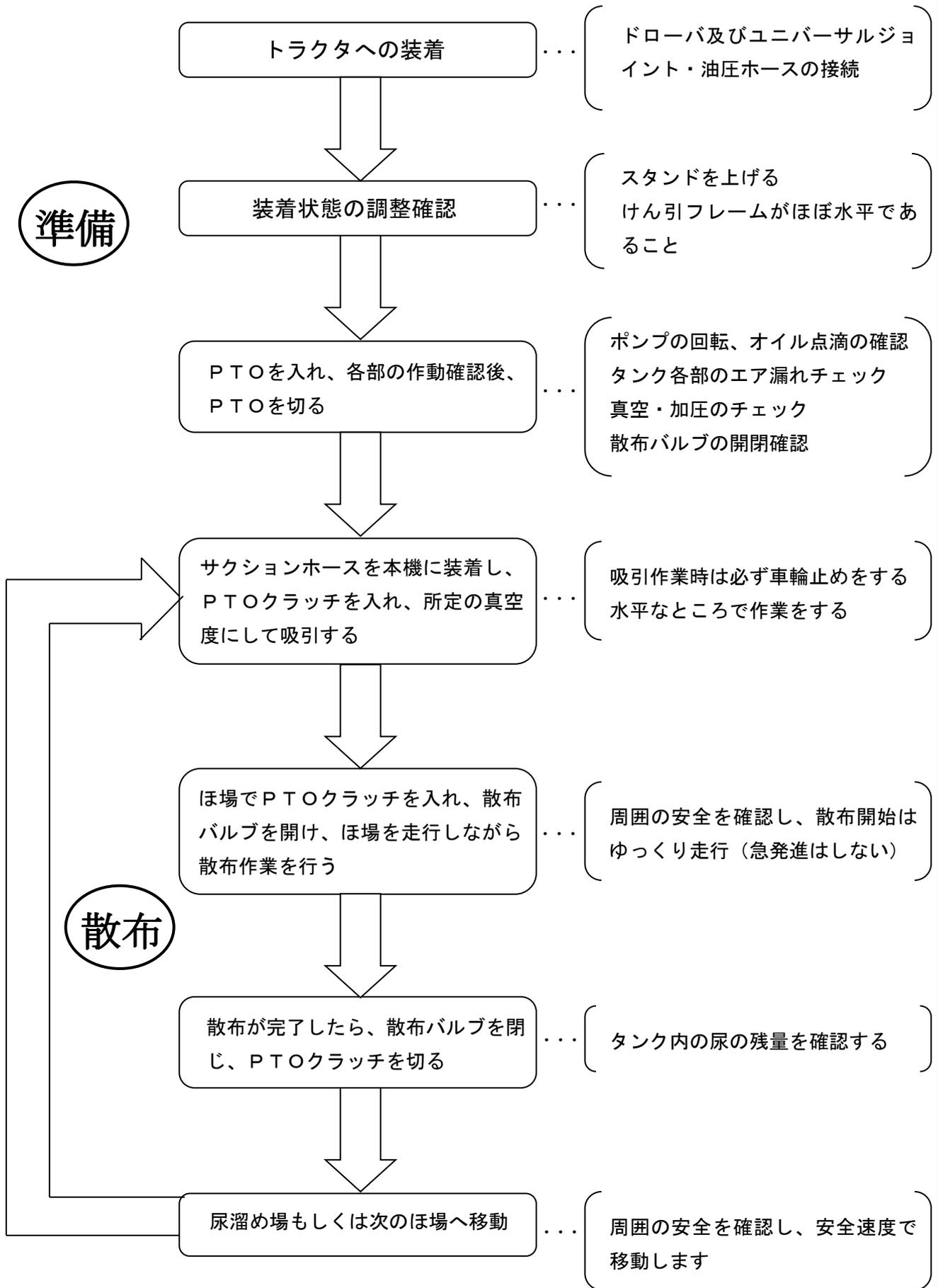
### 注意

ゲートバルブを開閉するときは、ストップバルブが開いているか確認してください。



# 作業方法

## 1. 作業手順と要点



# 作業方法

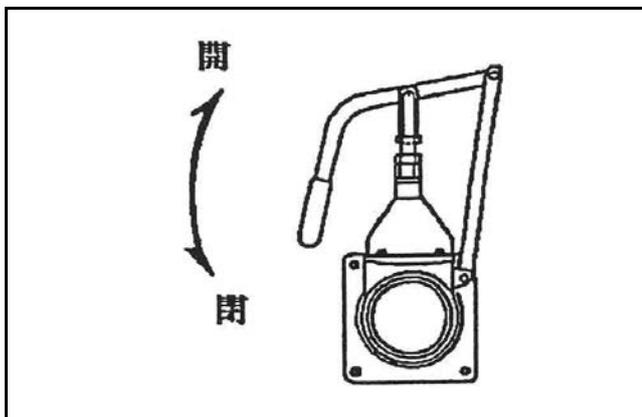
## 2. 吸入作業をするときは

### ◆吸入作業の手順

- ・尿溜め付近に本機を停止し、サクシオンホースのサクシオンパイプ側を尿溜めの中に入れ、カップリング側を本機の吸入バルブに接続します。
- ・ポンプ上部にある吸排切換えレバーを吸入の位置に合わせ、吸入バルブを閉じておきます。
- ・トラクタのPTOクラッチを入れ、所定の回転数にセットし、圧力連成計の針が所定の真空度に達すれば吸入バルブを全開にします。
- ・タンク内が満タンになると、自動給水停止装置が作動して吸入作業が終了します。
- ・吸入バルブを閉じて、タンクからサクシオンホースを離し、PTOクラッチを切り、散布ほ場へ移動します。

### ◆吸入バルブの開閉操作

吸入バルブの開閉操作は、レバーの上下により行います。



## ⚠ 警告

吸入作業時や本機を停止させているときは、必ず車輪止めをしてください。  
これを怠ると、事故が発生するおそれがあります。

## 注意

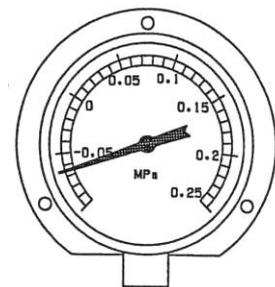
バキューム力の能力及び泡の発生は、糞尿の状態や真空度により大きく異なります。

下記を参照して適正真空度を選定してください。

### ●水に近い状態の場合

(ほとんどの泡の発生をみない)

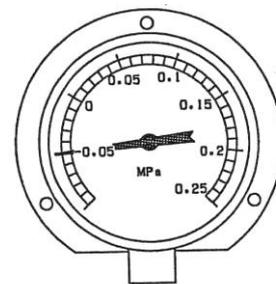
- ・PTO回転速度  
400~540min<sup>-1</sup>(rpm)
- ・真空度  
-0.05~-0.06MPa  
(40~50cmHg)



### ●中粘度の糞尿の場合

(流動性はあるが、ドロドロしている)

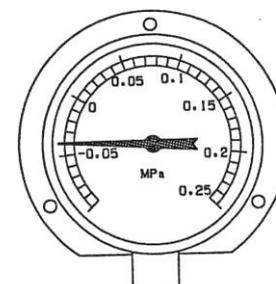
- ・PTO回転速度  
400min<sup>-1</sup>(rpm)以下
- ・真空度  
-0.04~-0.05MPa  
(30~40cmHg)



### ●高粘度の糞尿の場合

(流動性がなく、発酵開始時のもの)

- ・PTO回転速度  
400min<sup>-1</sup>(rpm)以下
- ・真空度  
-0.03~-0.04MPa  
(20~30cmHg)



- 泡の発生が激しい場合は、最初にバルブを開けてから、ポンプ上部の吸排切換えレバーを吸入の位置にすると、泡の発生が少なくなります。

# 作業方法

## 注意

タンク 1 台分の吸入時間が、本機が正常な状態で 9 分以上かかる場合は、水の投入や攪拌を行ってください。

### ◆攪拌手順

- ・サクシオンホースをタンクの吸入バルブに接続し、サクシオンパイプを尿溜めの底まで入れます。
- ・PTOクラッチを入れ  $400\sim 540\text{min}^{-1}$ (rpm) で回転させ、ポンプの上部にある吸排切換えレバーを排出側にします。
- ・吸入バルブを全開にすると、タンク内の圧縮空気がサクシオンホースを通して尿溜め底部から排出され、膨張浮上することにより表面に浮遊しているスカムを強力に破碎します。

## 警告

攪拌作業時に吸入バルブを開けると、サクシオンホース及びサクシオンパイプが圧縮空気によって強く投げつけられる危険性がありますので、しっかり固定しておいてください。

これを怠ると、傷害発生のおそれがあります。

## 警告

攪拌作業時は、尿溜め付近での禁煙や火気の扱いをしないでください。

発生するメタンガスは、有毒であり空気との混合ガスは、爆発の危険性があります。

## 3. 散布作業をするときは

### ◆ほ場への移動

ほ場などへの移動時には、必ず吸排切換えレバーを中立に戻し、タンク内の圧力を開放した後、PTOクラッチを切りポンプの回転を止めてから移動します。

## 注意

- ・移動時は、必ずPTOクラッチを切りポンプを止めてください。ポンプのオーバーヒートの原因になります。
- ・移動時や作業時は、旋回時にローリンクがけん引フレームに干渉しない程度にトラクタのローリンクを下げた状態で使用してください。

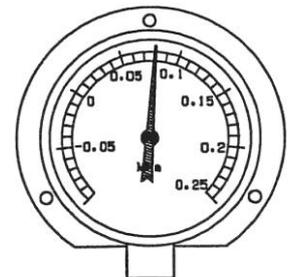
## 注意

移動時は、ヒッチの摩耗軽減の為、タンクを水平状態にするようヒッチ角度を調整してください。

### ◆ほ場での散布

- ①ポンプ上部にある吸排切換えレバーを排出の位置にする。
- ②PTOクラッチを入れ  $350\sim 540\text{min}^{-1}$ (rpm) でポンプを運転する。
- ③タンク内圧が圧力連成計により  $0.08\text{MPa}$  ( $0.8\text{kg}/\text{cm}^2$ ) に達したことを確認します。
- ④トラクタの油圧レバーを送る側にして散布バルブを開き、ほ場を走行しながら散布作業をします。
- ⑤タンク内の糞尿が空になったら、PTOの回転を止め、トラクタの油圧レバーを戻す側にして、散布バルブを閉じてください。

- ・圧力  
 $0.08\text{MPa}$   
( $0.8\text{kg}/\text{cm}^2$ )



# 作業方法

## 注意

- ・作業に入る前には必ずポンプのベーン潤滑用オイル及びギヤオイルが適量であることを確認してください。
- ・ポンプ起動時は、PTO回転速度を最低に落としてからクラッチの接続をしてください。  
高速回転の接続はポンプの破損の原因となり、著しい耐久力の低下をまねきます。  
高速回転で、連続して15分以上のポンプ作動はしないでください。

## ⚠ 注意

散布作業に入る前には、周囲に人や動物のいないことを確認してください。

## ⚠ 警告

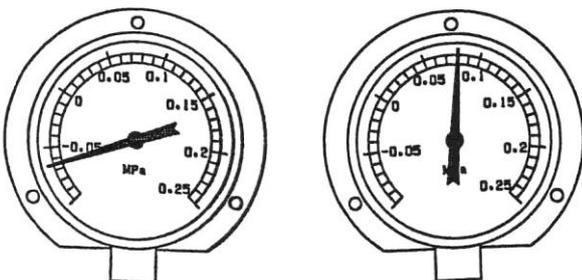
トラクタからユニバーサルジョイントを外すときは、必ずタンク内の圧力が0MPaであることを確認してから行ってください。

これを怠ると、ユニバーサルジョイントが振り回され傷害発生のおそれがあります。

## 注意

- ・いかなる作業においても、PTO回転速度は、 $540\text{min}^{-1}$  (rpm) 以下で作業してください。
- ・いかなる場合も、規定真空度、規定圧力範囲内で使用してください。

最大真空度  $-0.06\text{MPa}$  (50cmHg)  
最大圧力  $0.08\text{MPa}$  (0.8kg/cm<sup>2</sup>)



## ◆尿分離器の取扱い

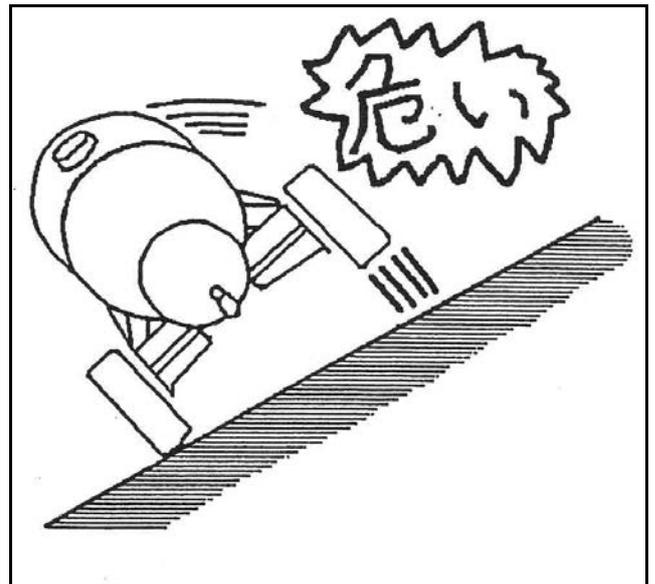
タンク内を加圧して作業すると、尿分離器内に使用されているオイルが溜まる場合があります。必要に応じて尿分離器を分解洗浄してください。

## 注意

- ・作業中にポンプへ尿が逆流するのを発見したら、ただちに吸排切換えレバーを中立に戻してポンプの運転を中止してください。

## ◆傾斜地での作業

傾斜地での散布作業においては上り、下りの直角走行状態で行うようにしてください。



## ⚠ 警告

斜面の等高線に平行、または斜め走行や急旋回は横転の危険がありますので決して行わないでください。



# 簡単な手入れと処置

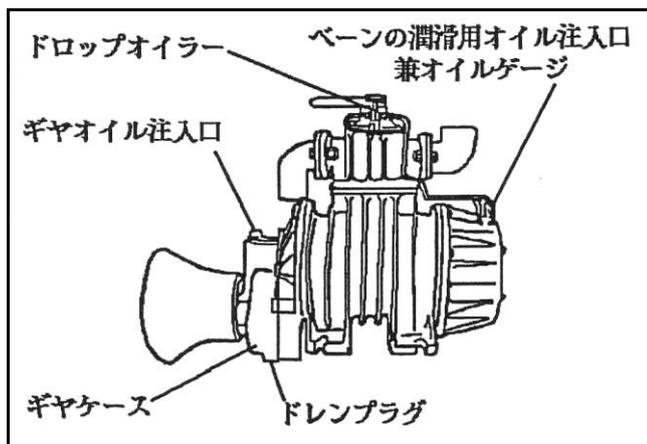
## 警告

- ①各部の調整をするときは、PTOを切り、エンジンを停止させて回転部が完全に止まってから行ってください。
- ②取外したカバー類は必ず取付けてください。

### 1. ポンプの確認・点検

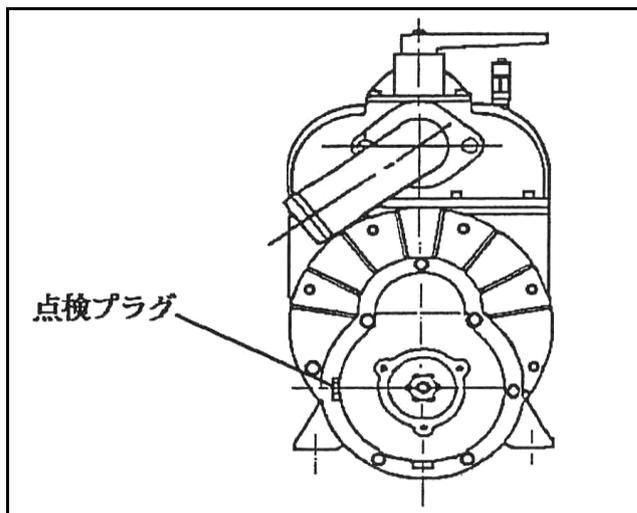
#### ●オイルの供給について

- ・ベーンの潤滑用オイルは、モータオイルSAE10W-30相当を使用してください。
- ・オイルタンクの容量：2.3リットル
- ・ポンプ運転時のオイル供給量  
毎分110~130滴（約5~6cc）



#### ●ギヤオイルの交換について

- ・ギヤ潤滑用オイルは、ギヤオイルSAE90相当のオイルを使用してください。
- ・ギヤオイルの交換時期は、運転開始後50時間後、それ以降は200時間毎、あるいは少なくとも年に一度は新しいオイルと交換してください。ギヤケースのオイル量は、約0.35リットルが適量です。（下図の点検プラグを外したとき、オイルが少し出てきたときが適量です。）



# 簡単な手入れと処置

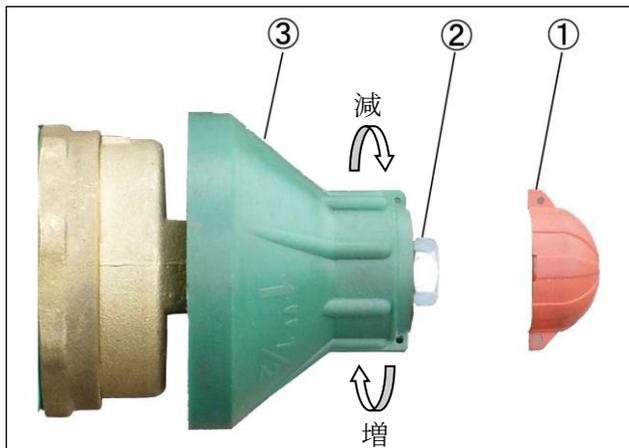
## 2. 真空安全弁の確認・調整

### ◆作用の確認

作業に入る前に、 $-0.06\text{MPa}$  ( $50\text{cmHg}$ ) で作用するか圧力連成計を見て確認してください。

### ◆調整方法

下図の①のキャップを外し、②のロックナットをゆるめて③を回して調整後、②を締めてロックします。

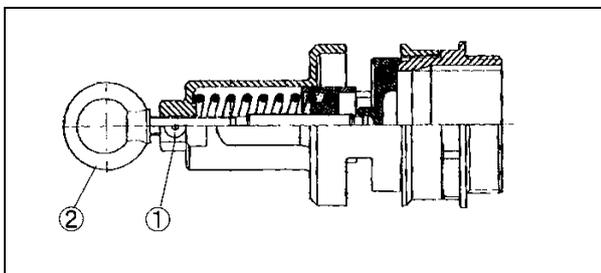


## 3. 加圧安全弁の確認・調整

### ◆作用の確認

作業に入る前に  $0.08\text{MPa}$  ( $0.8\text{kg/cm}^2$ ) で作用するか、圧力連成計を見て確認してください。

下図の①のネジをゆるめて②のリングを回して調整後、①のネジを締めてロックします。



### 注意

使用する前に上図②のリングを引き (1~2回)、弁の固着防止をしてください。

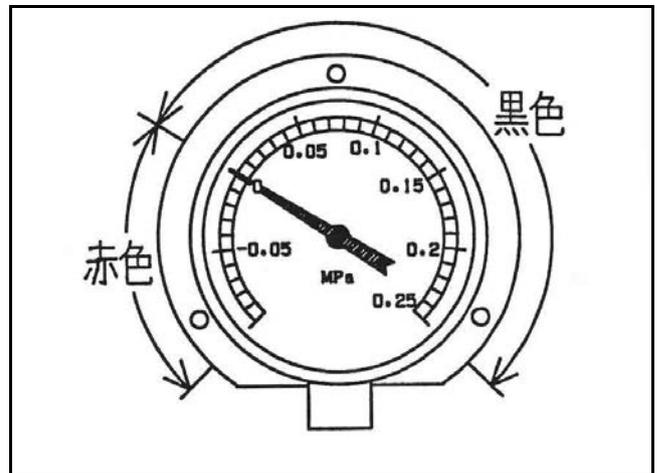
## 4. 圧力連成計の確認

圧力連成計は、

タンク内の真空度を赤色目盛

タンク内の圧力を黒色目盛

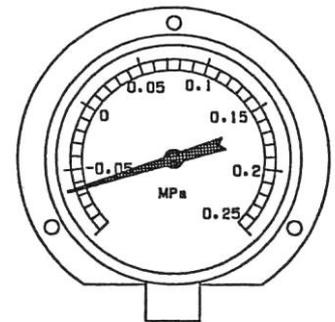
で表示しています。



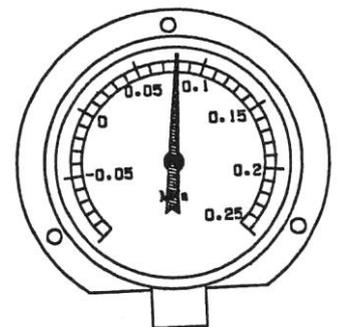
### 警告

真空度が $-0.06\text{MPa}$  ( $50\text{cmHg}$ )、圧力が  $0.08\text{MPa}$  ( $0.8\text{kg/cm}^2$ ) 以上になると危険ですので、調整時には規定以上にならないように特に注意してください。

真空度  
 $-0.06\text{MPa}$   
( $50\text{cmHg}$ ) 以下



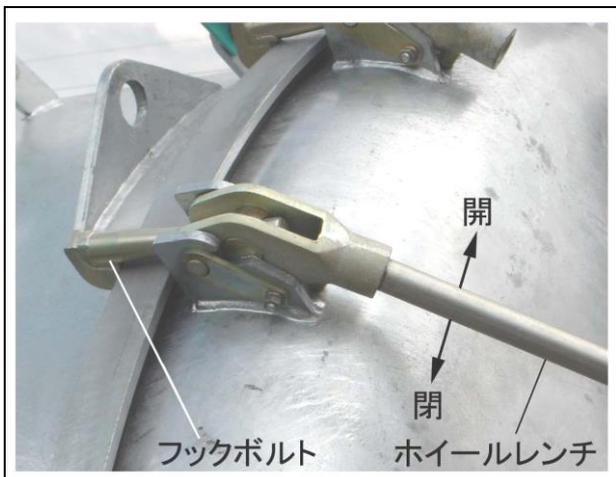
圧力  
 $0.08\text{MPa}$   
( $0.8\text{kg/cm}^2$ ) 以下



# 簡単な手入れと処置

## 5. リアハッチの開閉

- リアハッチを開けるときは、付属のホイールレンチでフックボルトを外して開きます。



- リアハッチを閉めるときは
  - ①各フックボルトが均等に締まるようにフックボルトの長さを調整し締めてください。
  - ②タンク内の真空度を-0.06MPa(50cmHg)にしてください。
  - ③各フックボルトがゆるんでいないか確認してください。ゆるみがあればフックボルトの長さを調整し締め直してください。
  - ④タンク内を0MPaに戻してください。

### 注意

ゴムパッキンにハッチの円筒部端面が必ず当たっていることを確認してください。ゴムパッキン部にグリスを塗布すると、ハッチの機密性が良くなります。

### 注意

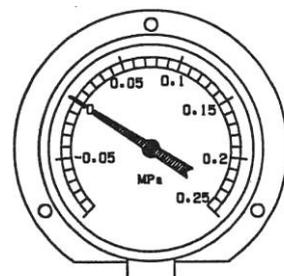
高い位置にあるフックボルトを調整するときは、脚立などを使用してください。タンクの上での作業は滑りやすく、足場が不安定で危険です。



### 警告

後部ハッチを開けるときは、タンク内に圧がかかっていると危険です。開ける前に圧がかかっていないことを必ず確認してください。

タンク内圧  
0 MPa



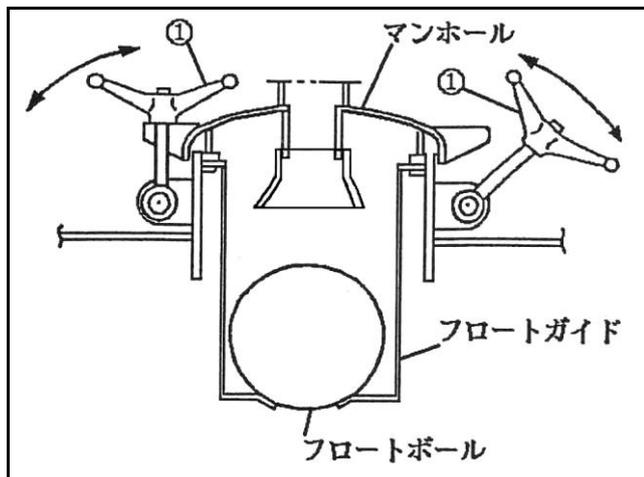
# 簡単な手入れと処置

## 6. 上部マンホールの開閉

タンク上部マンホールは、自動給水停止装置の点検を容易にするためにもうけてあります。

マンホールの開閉は、①のハンドルをゆるめボルトを横に倒し、マンホールを上へ引くと開きます。

閉めるときは逆の手順で行います。



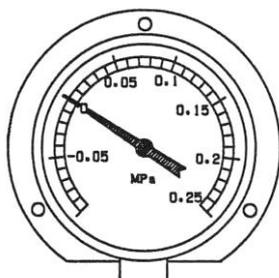
### 注意

マンホールを開けたとき、ゴムパッキン部にグリスを塗布すると、ハッチの機密性が良くなります。

### 警告

上部マンホールを開けるときは、タンク内に圧力がかかっていると危険です。  
上部マンホールを開けるときは、必ずタンク内に圧力がかかっていないことを確認してください。

タンク内圧  
0 MPa



## 7. 自動給水停止装置の確認

上部マンホール内のフロートボールが、スムーズに上下することを確認してください。ゴミの付着などにより、フロートボールが途中でひっかかったり、フロートボール受けが汚れていたりしていると自動給水停止装置が働かないときがあります。

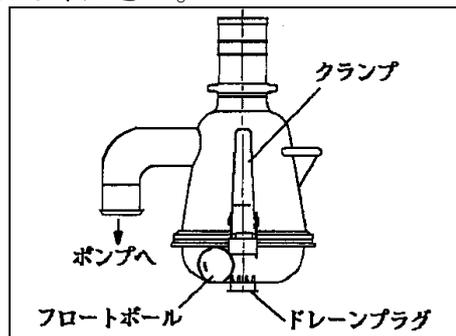
(第6項のマンホールの図参照)

## 8. 尿分離器の確認

尿分離器は、自動給水停止装置がなんらかの原因で作動しなかった場合、ポンプへの尿の逆流を防止し、空気と尿を分離させる機能を持った二重安全装置です。

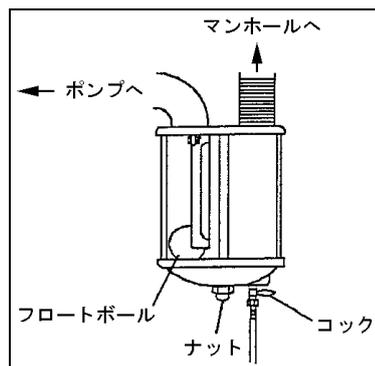
### ●S-4202・5302

- ①尿分離器内に尿などが溜まったらドレインプラグを開いて排出してください。
- ②底蓋・フロートボールが汚れたらクランプをゆるめて取外し、石鹼水で洗浄してください。



### ●S-7002・9002(H)

- ①尿分離器内に尿などが溜まったらコックを開いて排出してください。
- ②ナットをゆるめ底蓋を外して、定期的に石鹼水で底蓋・フロートボールを洗浄してください。
- ③洗浄後、底蓋を取付けると、Oリングが円筒部端面に必ず当たっていることを確認後、ナットを締めてください。



## 簡単な手入れと処置

### 9. タイヤの点検・修理

#### ◆装着のタイヤと空気圧

本機に装着のタイヤ、空気圧は下記の通りです。定期的に空気圧を点検してください。

##### ●S-4202

11.5/80-15 8PR  
空気圧 300kPa (3.0kg/cm<sup>2</sup>)

##### ●S-5302

11.5/80-15 10PR  
空気圧 380kPa (3.8kg/cm<sup>2</sup>)

##### ●S-7002

14L-16.1 10PR  
空気圧 250kPa (2.5kg/cm<sup>2</sup>)

##### ●S-9002(H)

16.0/70-20 12PR  
空気圧 300kPa (3.0kg/cm<sup>2</sup>)

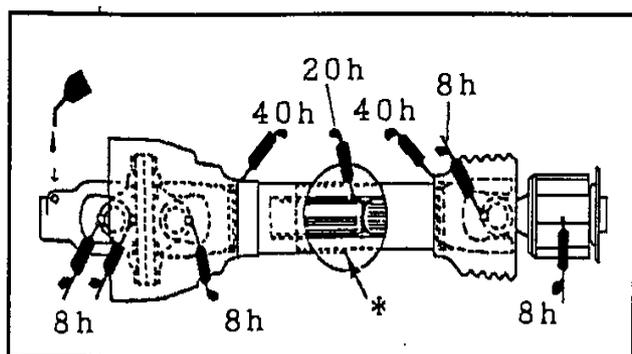
### 警告

- タイヤに関する作業を行う場合は、安全な場所に本機を降ろし、必ず車止めをしてから行ってください。
- タイヤ及びホイールに関する修理は、十分な設備をもったタイヤショップなどの専門の所に依頼してください。

# 簡単な手入れと処置

## 10. 各部への注油・グリスアップ

No.	場所	時間	備考
1	ホーシング (左右2カ所)	50h	グリスアップ
2	ユニバーサルジョイント		時間及び給油箇所は、ユニバーサルジョイントの取扱説明書を参照してください。
3	シリンダ	50h	グリスアップ
4	牽引幹支点部分 (左右2カ所)	50h	グリスアップ

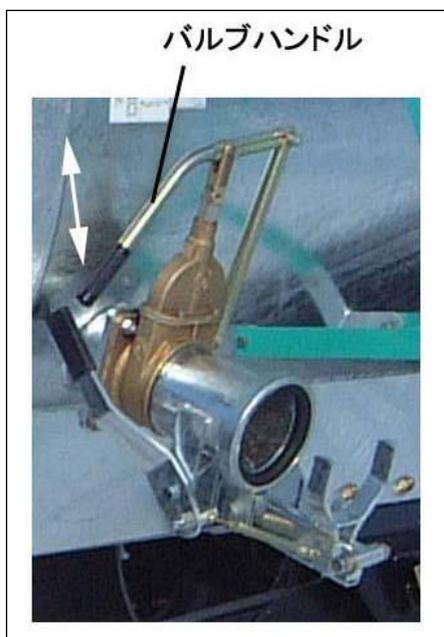


# 簡単な手入れと処置

## 1 1. 長期格納時の手入れ

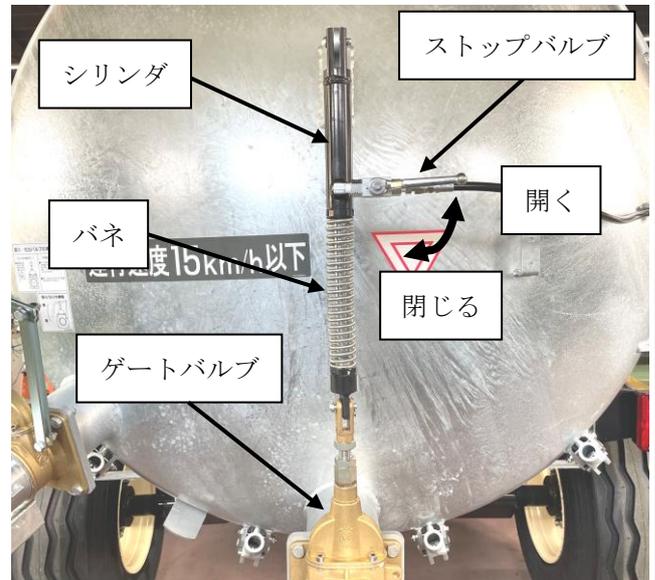
- 水洗いして付着した糞尿や泥などを洗い落としてください。
- タンク内も洗浄してください。  
タンク内に約半分の水を入れ、トラクタの前進・行進を繰り返して付着したゴミなどを洗い落としてください。
- 乾燥後、回転部・摺動部には十分注油し錆びないようにしてください。
- 塗装のはがれた部分には、塗料を塗って錆びないようにしてください。
- 各部のボルト・ナットがゆるんでいないかを確認し、ゆるんでいるときは締めてください。
- 格納するときは吸入・散布バルブを半開きの状態にし（凍結防止）、屋内の平坦な場所で保管してください。

吸入バルブはバルブハンドルを上にあげ、半開きの状態にしてください。



散布バルブは

- ①油圧を操作し、シリンダを縮めてください。
- ②ゲートバルブが半開きの状態になっているか確認してください。
- ③ストップバルブを閉じてください。



# 簡単な手入れと処置

## 9. タイヤの点検・修理

### ◆装着のタイヤと空気圧

本機に装着のタイヤ、空気圧は下記の通りです。定期的に空気圧を点検してください。

#### ●S-4202

11.5/80-15      8PR  
空気圧 300kPa (3.0kg/cm<sup>2</sup>)

#### ●S-5302

11.5/80-15      10PR  
空気圧 380kPa (3.8kg/cm<sup>2</sup>)

#### ●S-7002

14L-16.1      10PR  
空気圧 250kPa (2.5kg/cm<sup>2</sup>)

#### ●S-9002(H)

16.0/70-20      12PR  
空気圧 300kPa (3.0kg/cm<sup>2</sup>)

### 警告

- タイヤに関する作業を行う場合は、安全な場所に本機を降ろし、必ず車止めをしてから行ってください。
- タイヤ及びホイールに関する修理は、十分な設備をもったタイヤショップなどの専門の所に依頼してください。

# 不調診断

不調内容	診 断	処 置	参照 ページ
●規定の真空度まで下がらない また真空度に達するのに時間がかかる	●マンホール、リヤハッチ、吸排ゲートバルブ、カップリング、ホースなどから空気が漏れていないか	●マンホール、リヤハッチ、吸排ゲートバルブなどを確実に締めなおす	25・ 31・ 32
	●上部マンホール内の自動給水停止装置のフロートボールがゴミなどに引っかかっているか	●ゴムパッキン、ホースなどが老化していたり、亀裂が発生していたら交換する	32
	●安全弁が壊れているか 調整不良でないか	●安全弁を交換あるいは、再調整をする	30
●タンク内は、規定真空度まで達するが吸入に時間がかかる	●カップリング、サクシオンホースから空気が漏れていないか	●ゴムパッキン、ホースなどが老化していたり、亀裂が発生していたら交換する	25
	●サクシオンホースが折れ曲がったり、吸入口に異物が詰まったりしていないか	●ホースを真っ直ぐにして、異物を取除く	—
	●糞尿が固すぎる	●糞尿を攪拌するか、必要に応じて水を投入して粘度をさげる	26
	●サクシオン深さをオーバーしていないか サクシオン深さ：尿溜めの液面から、本機の液面までの高さ	●最高条件で、水の吸い上げ深さは約6mで、スラリーのような高粘度の場合、約3mが限界	—
	●サクシオンホースが長過ぎないか	●高粘度ほどサクシオンホースの長さは吸入に悪影響 必要以上延長しないこと	—
	●尿分離器・自動給水停止装置のフロートボールが上がっていないか	●尿分離器・上部マンホールを洗浄する	32
●ポンプが異常に高温になる ※通常の繰り返し作業におけるポンプ温度は80℃前後	●オイルが確実に規定量供給されているか	●少ないときは再調整	29
	●ポンプの回転速度が高すぎないか	●PTO回転速度 540min <sup>-1</sup> (rpm)以下で使用	26
	●必要以上にポンプを回していないか PTO回転速度 540min <sup>-1</sup> (rpm)で15分以下	●運搬、移動中はポンプを回さない	26
	●規定のオイルを使用しているか	●ベーン潤滑用オイルは SAE10W-30	29
	●ポンプギヤオイルが規定量入っているか	●ギヤオイルはSAE90 (0.35リットル)	29
●ポンプにオイルが供給されない	●オイルタンクにオイルが十分入っているか	●規定オイルの補給をする	29

# 付表

## 1. 主要諸元

品名		バキュームカ				
型式	S-4202	S-5302	S-7002	S-9002	S-9002H	
装着方法	ドローバけん引式					
駆動方法	PTO 駆動 {回転速度 540min <sup>-1</sup> (rpm)}					
適用トラクタ	33.1~58.8kW (45~80PS)	40.5~88.3kW (55~120PS)	47.8~88.3kW (65~120PS)	55.2~91.9kW (75~125PS)		
油圧取出	複動1系統 単動1系統				複動2系統 単動1系統	
機体寸法	全長	5220mm	5590mm	6090mm	6510mm	
	全幅	1965mm	1965mm	2180mm	2400mm	
	全高	2230mm	2330mm	2450mm	2550mm	2630mm
質量	1390kg	1710kg	2290kg	2720kg	2790kg	
タイヤサイズ	11.5/80-15 8PR	11.5/80-15 10PR	14L-16.1 10PR	16.0/70-20 12PR		
	φ850x315		φ940x355	φ1090x420		
車輪配列	1軸4輪					
タンク容量	4200 ℓ	5300 ℓ	7000 ℓ	9000 ℓ		
吸入能力	2100 ℓ/分(4インチ)			3600 ℓ/分(5インチ)		
散布幅	10~12m					
作業速度	3~6km/h					
作業能力	5~6分/10a					

※この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

## 2. 主な消耗部品

部品名称	部品コード	員数
ベーン(ハネ)	50006-1113-000	4個/台

## 3. 給油

部品名称	使用オイル	給油量
ポンプ(ベーン潤滑用)	モータオイル SAE 10W-30	2.3リットル
ポンプ(ギヤ潤滑用)	ギヤオイル SAE 90	0.35リットル